

補助事業番号 19-58

補助事業名 平成19年度 地域産業技術の振興等補助事業

補助事業者名 財団法人 中部科学技術センター

## 1. 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

自動車関連、工作機械など世界をリードする産業が育っている中部地域は、わが国の生産拠点として長年に亘りものづくり産業をリードしてきた。

中小・中堅企業が世界的な優位性を維持しつつ21世紀を生き抜くためには、経営力、技術力の向上が不可欠であり、生産現場における活力の維持と併せて、これまでの技術分野に捕らわれることなく新たな分野へ眼を向けることが必要となってくる。

当財団は中小・中堅企業の持つニーズや技術シーズの収集に軸足を置き、より一層企業に自立型技術開発力を促す支援事業計画を進め、新規分野における産業の創出を図り、効率的・効果的な産学官の連携体制をさらに強化するため、共同研究プロモート活動、事業化評価専門家会議、テクノ・インダストリースクエア、プロジェクト形成研究会、実用化促進研究会の活動を通じて有益な革新技術の開発、新産業・新事業創出の促進に向けた事業を実施した。

### (2) 実施内容

中部地域の中小・中堅企業の自立型技術開発力支援事業

<http://www.cstc.or.jp/index/03sangakukan-renkei/keirin/19-58.mht>

#### ア. 共同研究プロモート活動

共同研究プロモート活動を中部8県の大学・試験研究機関の技術シーズと企業ニーズをマッチングさせ、産学官共同の研究開発を数多く形成することを目指し、3名のプロモーターを配置し積極的に実施した。具体的な活動・成果は次の通りである。

①有用技術シーズの発掘収集: 10大学・1高専、2試験研究機関及び大学の先生への個別訪問による技術シーズの発掘・収集(訪問件数23件)

②シーズ・ニーズマッチング活動: シーズ紹介と同時に企業ニーズの収集に努力。

相互にフィードバック実施。(企業訪問件数100社、企業ニーズへの対応34件)

③プロジェクト形成研究会・地域新生コンソーシアム提案等への支援活動

産学官連携による事業の早期育成のための上記研究会・コンソーシアムへの提案支援等を実施。

また、効率的活動のため地域内のコーディネーターと連携も図り情報交換も行った。



#### イ. テクノ・インダストリースクエア等の開催

◇シーズ集の作成およびテクノ・インダストリー・スクエアの開催

中部技術開発支援団体会議参加10機関で収集活動を実施した結果、平成18年度の提案技術シーズの継続分を含めて901件(前年916件)、うち平成19年度の新規提案は536件収集で

きた。収集した技術シーズの中で主要419件について「システックシーズセレクション(中部の技術シーズ)」として製本、刊行し、民間企業に紹介すると共に、岐阜、富山、名古屋において、テクノインダストリー・スクエア(シーズ説明会)を延べ3回開催し、合わせて約196名の民間企業からの参加を得て、技術シーズを民間企業に広く紹介できた。同時に中部の技術シーズは中部経済産業局のホームページ「技術開発施策」にも掲載された。

#### ◇事業化評価専門家会議(技術分野別)

収集した技術シーズの内、共同研究プロジェクト化を効果的・効率的に推進するために必要な下記事項の検討を行った。

- 1) 大学・研究機関のシーズに対する評価
- 2) シーズ集「システックシーズセレクション」への掲載の選考
- 3) プロジェクト形成研究会への推薦候補の選考
- 4) その他上記目的達成のために必要な事項

また、19年度収集した技術シーズに対し、下記項目について評価を実施し、平成20年度のプロジェクト形成研究会への候補を選定した。

- ・必要性、目的、目標
- ・技術シーズ、研究開発計画
- ・実用化の見通し、波及効果
- ・プロジェクト形成研究会活動への推薦

#### ウ. プロジェクト形成研究会活動

下記の7テーマの研究会、幹事会を進め、6テーマについて「平成20年度地域イノベーション創出研究開発事業」等に応募した。

- a. プロジェクト形成研究会A(高機能アルミニウム合金の組織制御加工プロセスの開発)、3回の研究会を終えて、「平成20年度「育成研究」(JST)」に応募した。
- b. プロジェクト形成研究会B(ディスク型高速高感度免疫化学測定装置の研究開発) 4回の研究会、を終えて、「平成20年度地域イノベーション創出研究開発事業」に応募した。
- c. プロジェクト形成研究会C(超精密金型への水素フリーテトラヘドラル DLC 保護膜形成技術の開発)、5回の研究会を終えて「平成20年度戦略的基盤技術高度化支援事業及び「平成20年度「育成研究」(JST)」に応募した。
- d. プロジェクト形成研究会D(複数の半導体レーザーを用いたマルチビーム円周溶接技術の開発)、5回の研究会、1回の幹事会を終えて、「平成20年度地域イノベーション創出研究開発事業」に応募した。
- e. プロジェクト形成研究会E(アルツハイマー病の血液診断法の開発)、5回の研究会、2回の特別講演会・幹事会、を終えて「平成20年度地域イノベーション創出研究開発事業」に応募した。
- f. プロジェクト形成研究会F(酸素ラジカル吸蔵環境親和材料を利用した環境リスク低減装置の開発)、4回の研究会、1回の幹事会を終えて、「平成20年度「育成研究」(JST)」に応募した。
- g. プロジェクト形成研究会G(大容量自励振動ヒートパイプの開発と宇宙・エネルギー技術への応

用)、3回の研究会を終えた。

## エ. 実用化促進研究会活動

### ◇研究会の目的

過去に終了した「地域新生コンソーシアム研究開発事業」の成果の実用化促進を目的として、「実用化促進研究会」を運営し、下記について実施した。

- ・研究開発の進捗フォロー・メンバー間の交流促進
- ・国の技術支援、助成制度等の情報提供・応募支援 他

### ◇研究会の開催

平成17年度及び平成18年度に終了した地域新生コンソーシアム研究開発事業3テーマについて、合計4回の研究会を開催し、実用化、製品化に向けた取り組みを検討した。

- ・実用化研究会1「革新的鋳物創生砂型プレスキャストプロセスの開発」  
(豊橋技術科学大学、アイシン高丘、新東工業他)
- ・実用化研究会2「超微細物理乳化による高能率セミドライ切削システムの開発」  
(名古屋工業大学、産業技術総合研究所、コウワ技研、榎本ビーエー他)
- ・実用化研究会3「組換えプロテオリポソーム自動製造装置開発と診断・治療への実用化研究」  
(三重大学、名古屋大学、医学生物学研究所、橋本電子工業他)

## 2. 予想される事業実施効果

### ア. 共同研究プロモート活動

重点活動としているプロモーター活動をよりきめ細かいものとし、従来以上にシーズ・ニーズの情報収集につとめ、産学官連携のプロジェクトの立上げに努力した。

本年度は特に積極的に企業ニーズの把握に努め、シーズとのマッチングを有効的に結びつけることが出来るよう活動を行った。更にこれを研究機関にフィードバックすることにより市場に繋がる共同研究開発形成が期待出来る。

### イ. テクノインダストリー・スクエア等の開催

「システックシーズセレクション」の技術シーズを民間企業に広く紹介することにより、今後ますます相談件数が増加するものと予想される。また、技術シーズに対する問い合わせや、技術シーズが民間企業との共同研究に入ったのもあり、産学官共同研究がより進展するものと思われる。技術シーズは、幅広く紹介したことにより、民間企業の個別問題にも対応可能となり、技術の底辺拡大に対する効果が大きく、これらにより、産業の活性化が期待できる。また、7件のプロジェクト形成研究会を運営することにより、国の各種技術支援施策にも応募出来、産学官共同研究の進展、企業への技術移転、独創的技術による新事業の創生、雇用の拡大が予想される。これにより、地域経済の活性化に貢献できる。



### ウ. プロジェクト形成研究会活動

7件のプロジェクト形成研究会は、各々の研究会開催により事業化にむけた共同研究での課題が明確となった。今後は地域新生コンソーシアム研究開発事業等での事業化に向けた開発研究に進展することにより、ライフサイエンス、環境、エネルギー、情報通信、医療・福祉等これから期待される分野への活躍が期待される。ここ数年のうちに実用化に至るようになれば、経済発展に大きく寄与するものと思われる。

#### エ. 実用化促進研究会活動

過去に終了した地域新生コンソーシアム研究開発事業3テーマについて、研究会を計4回開催し、3テーマとも、開発技術の実用化に向け、開発体制を維持し、鋭意開発を推進しており、本研究会の存在意義は大きいと認められる。

### 3. 本事業により作成した印刷物等

「平成19年度システックシーズセレクション」

(中部の技術シーズ)1600部

(材料分野、バイオテクノロジー分野、電子・情報通信分野、機械・システム分野、医療・福祉分野、エネルギー分野、環境分野)



### 4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 財団法人 中部科学技術センター(チュウブカガクギジュツセンター)

住所： 460-0008

愛知県名古屋市中区栄二丁目17番22号

代表者： 会長 野嶋 孝(ノジマ タカシ)

担当部署： 科学技術普及部(カガクギジュツフキュウブ)

担当者名： 部長 平澤 進(ヒラサワ ススム)

電話番号： 052-231-3043

F A X： 052-204-1469

E-mail： [s.hirasawa@cstc.or.jp](mailto:s.hirasawa@cstc.or.jp)

U R L： <http://www.cstc.or.jp/>